

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171300140
法人名	有限会社 ゆとり
事業所名	グループホーム ゆとり苑
所在地	佐賀県小城市三日月甲柳原170番地2 (電話) 0952-72-6632

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年 6月 1日	評価確定日	平成 21年 7月 14日

【情報提供票より】(平成20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(平成20年1月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	3 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ひらまつ病院・古賀医院・ゆめ歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街が立ち並ぶ通りに面した木造平屋建てのグループホームである。苑の裏手には、田園風景が広がり窓を開けると、自然の光や風が入り、穏やかな生活が営める空間が広がっている。苑庭には木や花が植えられ、四季の自然を感じることができる。管理者が長年住む地域でもあり、入居者と地域住民とが交流がしやすい環境である。同地域にあるグループホーム等との交流ももたれ、外部に開かれた苑を目指されている。理念にある「その人らしく、心豊かに、安心と安らぎのある暮らし」が、職員の接し方や入居者の過ごす雰囲気から感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価内容、改善内容等の結果は、全員に伝えられている。その評価をもとに、職員全員が話し合い、理解してサービス改善とサービスの向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間で集まり、評価の目的や意義を理解し、話し合い、自己評価に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回、民生委員・地区区長・婦人会・他のGHの管理者等と運営推進会議を行っている。その会議内容を職員に報告し、会議で意見等があった時は、朝礼時や全体会議にて意見交換を行い、少しでもサービスの向上につながるように活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に健康状態や近況報告をしている。毎月の預かり金の使途明細の報告と、定期的な(苑だより)の中で皆さんの生活状況や苑生活の状況を随時報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の方より、野菜の差し入れや散歩時の声掛け、野菜作り等の為に畑の提供を受ける等、地域の人々とのかかわりを積極的に持たれている。また、近隣の老人福祉施設・グループホーム等と交流ももたれ、地域活動へも参加し交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在掲げられている理念は「その人らしく、心豊かに、安心と安らぎのある暮らし」で、住み慣れた場所で地域との共生をめざした内容となっており、ホーム設立時に独自に作り上げたものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に説明を行い、日常的にケアを通じて申し送りや全体会議の中で話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	各職員がそれぞれの関係作りに努め、自治会等などの地域活動(除草作業・お祭り等)への参加も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容、改善内容等は朝礼時等で報告を行っている。全員に伝わるように申し送りノートに記入し、全員が理解してサービス改善とサービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員・地区区長・婦人会・他のGHの管理者等と運営推進会議を行っている。その会議内容を職員に報告し、会議で意見等があった時は、朝礼時や全体会議にて意見交換を行い、少しでもサービスの向上につながるように活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設運営上の課題、利用者のサービスの質の向上等について、スタッフは市や町の担当者と月1回程度接点を持ち、取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に健康状態や近況報告をしている。毎月の預かり金の使途明細の報告と、定期的な(苑だより)の中で皆さんの生活状況や苑生活の状況を随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会議時に出席された家族の方から、意見や希望を聞けるように時間を設けている。また玄関には意見箱を置いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3年以上の勤務者の方が多く、離職があっても空白を感じさせない、馴染みの関係を続けることが重要と心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容等は案内をすべて回覧し、職員が希望する研修にできる限り参加できるよう努めている。職員の段階に応じた研修の機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、交流会・外食等を地域の同業者と開き、利用者や職員同士の交流を深め、情報の交換などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の体制があり、来所して来られたら、食事の時間、レクの時間を楽しんでもらい、雰囲気にも馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との関わりの中では、「尊厳の念をもって、共同生活をする上でたくさん学ぶことがある」という考えのもとで、相談していただける環境づくりを行い、状況を確認しつつ早め早めの対応を行いながら、共に助け合いながら過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、家族と共に生活習慣や本人や家族の希望等を聞き入れ、意向の把握に努めている。困難な場合、過去のことをふまえて検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に介護計画の説明を行い、本人、家族の希望を取り入れている。また、職員間での情報収集を行い介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は実施期間を決めて、その期間に応じて見直しをしている。また、入居者の状況に変化があった時は、その変化に応じて変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日ごろから接している職員が連絡調整を家族と行い、家族の要望により必要時はホームで通院支援等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される以前のかかりつけ医への受診支援や、協力医療機関への受診を行っている。記録等についても共有できる体制作りを行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、終末期の確認を行い、「重度化指針に関わる同意書」に署名、捺印をもらっている。本人、家族のかかりつけの医療機関との話し合いも行い、方針の共有もできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の表情や様子を観察しながら言葉かけを行っている。言葉使いや声のトーンなどには注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々々の状況や様子に応じて声かけをしながら判断して、入居者自身の選択を支援し、本人の希望に沿った生活となるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で採れた野菜をそろえたり、皮をむくなど、楽しみながら食事の準備を行っている。また、安全な手作業や、配膳、つぎわけ、茶碗拭き、収納等は積極的に入居者が行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を重視し本人の希望に合わせた入浴をしている。入浴に関してはできるだけ自立を促し、見守りと言葉かけを多くしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活習慣を活かし、好きな手伝い(洗濯物干し・洗濯物たたみ・茶碗拭きなど)は積極的に、自然な形で自分の出来る範囲内での手伝いをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その時々で時節の行事、苑外散歩、買い物、外食、外出など出来るだけ外に出る機会を多く作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけることなく、いつでも出入りができるように開放している。また利用者の行動は、随時把握しながら所在確認をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練を定期的に行い、消防署からの立会いもあり、火災、災害についての認識はスタッフ全員が共有している。また、地域の方々(特に両隣)からの協力については運営推進会議等においてもお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のケアチェック表にその都度記入している。彩りや盛り付けなど目でも楽しめて、食べやすい大きさに切るなどして、摂取につながるよう工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の家具類は一般的な家庭用の物を利用して、季節に応じた小物で変化をつけている。トイレや廊下は光センサーを利用して照明をし、エコと明るさの確保を心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、家族と本人でよく話し合いをもち、使い慣れたものや大切な物は持ち込んでもらい、自宅と変わらないように過ごすことができるように工夫をしている。		